

令和5年度 北見カトリック学園 幼保連携認定こども園留辺薬マリア幼稚園 学校評価

1.教育目標

- ・人や何に対しても感謝の心を持てるこども
- ・自分のあやまちを素直に認め、謝れるこども
- ・他人のあやまちを素直に許せるこども
- ・いろいろな事に興味を持ち、学究するこども

2. 教育目標達成に向けての5年度の重点

- (1)目に見えないものを感じ取る心を培い、神様に感謝し祈る心を育てる。
- (2)心からの感謝、お詫び、赦しを伝え合う。
- (3)五感を通して豊かな体験をすると共に、豊かな感性を育む。

3. 評価項目の達成状況

評価項目	結果	理由
教育内容・環境の充実と計画性	3.7	○自主的な活動を進める教材を準備し喜んで取り組む姿が見られる。自然に恵まれた園舎外では自然を遊びに取り入れて展開する。種を取り育てる等、生命を繋ぐ取り組みが良かった。
保育の充実と園児との関わり	3.6	○カリキュラムを見直しながら縦割り保育・年齢別保育と双方を充実させるように計画・実践する。また園児同士の関わりの中で特別支援児に対しての理解が深まり自然に関わる。
安全管理	3.8	○月一度の防災訓練では毎年行っている内容でも実践後に振り返り検証し新たな気づきがあった。常に見直しや新しい情報の入手が必要。警察と連携して活動を行う事が出来た。
地域の幼児教育機関としての役割	3.5	○食育や畑作りは地域の方に力を頂く。コロナ禍で途絶えていた地域との交流を活発に行う事が出来た。子育て支援講座は好評。未就園児教室参加が少なく難しさを感じる。
教員の資質・能力向上	3.5	○本学園や私立幼稚園連合会・北見市内で行われる研修に積極的に参加する。またZoomによる研修も活用し、参加した職員が他の職員に伝えて分かち合い互いに質の向上に努める。
保護者との連携	3.7	○保護者アプリ『コードモン』の本格的運用に伴い、通信や連絡帳で活用する。写真添付の連絡帳は伝わり易く良い。一方で対面の連携が減る傾向がある。双方大切にすべきと認識する。

※結果の表示方法 4 十分達成されている 3 やや達成されている 2 あまり達成されていない 1 取り組まれていない

4. 5年度の総評

結果	理由
3.6	○建学の精神に基づいた教育・保育を心掛ける。今年度の園の取り組みとして3歳以上児が「神様がくださったものに気づき、喜び、感謝しよう」・3歳未満児が「神様の種をまこう」というテーマで実践を進める。年度前半は熱心な取り組みが展開されたが後半は弱かった。年間通した意識づけが課題となる。 ○5月にコロナが5類になった事によりコロナ前のような日常生活や行事を気兼ねなく行う事が出来た。2～3年経験していない事が多かった園児にとっては新鮮で色々な経験が出来た1年間だった。特に地域と繋がる行事や活動が出来た事は良い体験となる。 ○3歳以上児クラスは年少・中・長の割合に偏りがあり低年齢の子が少ないが関わりが広がる。クラスは温かい雰囲気保育の実践を行う。日常保育は新しい試みがあり、喜んで活動している姿が見られた。行事では出来るだけ園児自身で準備し創り上げる行事を目指して成果を得る。一方で行事が近くなると取り組みのみが重視となる傾向があった。

5. 来年度に向けての課題

- ①教職員が建学の精神の理解を深める
- ②保育のねらいの明確化と実践
- ③閉園最後まで充実した教育・保育の提供
- ④閉園までの職員の意識の向上とモチベーションの維持
- ⑤翌年度以降に向けた園児や施設のスムーズな引継ぎ
- ⑥地域へ感謝の想いを伝える取り組み